

かみさぎ

発行 上鷲宮区民活動センター 運営委員会 広報部
 中野区上鷲宮3-7-6 TEL(3970)9182 FAX(3970)9183
 E-mail:nakano_kamisagi@honey.ocn.ne.jp
 http://www.nakano-kamisagi.gr.jp/

平成29年(2017年)

12/15

第39号

隔月刊

新しくなったセンターで新春はおおいに笑いましょう!

笑福亭希光 落語会



若手落語家から、いま勢いのある笑福亭希光さんを、センターのこけら落としにお呼びします!

新しいセンターで、伝統話芸の魅力をご堪能ください。

新春にふさわしくチンドン屋さんが会場を盛り上げます!

■日時: 平成30年1月20日(土)
13:00~

■場所: 上鷲宮区民活動センター
1階集会室

※手芸品のバザーもあります。



【問合せ】上鷲宮区民活動センター運営委員会 ☎(3970)9182

区民活動センターロッカー貸出のお知らせ

【対象】上鷲宮区民活動センター集会室の利用登録をしている地元団体

【貸出し数】24個

【貸出期間】平成30年2月1日~平成31年1月31日

【受付】平成30年1月9日(火)~19日(金)まで

・申込み多数のとき

1月24日(水) 10:00に抽選

・申込み数が貸出し数に満たないとき

1月24日(水) 13:00から一般団体を先着順に受付

【問合せ】上鷲宮区民活動センター受付 ☎(3970)9131



【お知らせ】

☆集会室及びテニスコートの抽選会の日程は下記のとおりです。

12/18(月) 1/15(月) 2/19(月)

(地元団体)9:30~ (一般団体)10:30~ (テニス)14:30~

※12/18は二丁目集会室(上鷲宮2-4-6)で行います。

上鷲宮地区「年末年始」の資源・ごみ収集日

ごみの種類	年内最終日	年始開始日
①燃やすごみ	12月29日(金)	1月5日(金)
②陶器・ガラス・金属ごみ	12月27日(水)	1月10日(水)
③プラスチック製容器包装	12月25日(月)	1月8日(月)
④びん・缶・ペットボトル	12月27日(水)	1月10日(水)

* 集積場所の貼り紙でご確認ください。

【問合せ】①②③: 中野区清掃事務所 ☎(3387)5353

④: 中野区ごみゼロ推進担当 ☎(3228)5555

資源持ち去り行為に対する罰則等を導入します

来年1月1日から、所定の場所に置かれた古紙や缶などの資源を持ち去った者に対し禁止命令を発し、従わない場合は氏名等を公表、20万円以下の罰金を科します。持ち去り行為を見かけたら、110番通報し、区にも情報提供をお願いします。持ち去りに直接注意するのは危険ですのでやめましょう。

【問合せ】中野区ごみゼロ推進担当 ☎(3228)5555

上鷲宮むかしがたり



(写真) 餅搗き

<餅搗(モチツキ)>

昔は12月末には、どこの家でも餅搗をしていた。前日に餅米をといでおき、翌日朝から搗く。「ハツツイ(カマド)」に大釜を据え、餅米を入れたセイロ(注1)を二段のせて薪で強く焚く。蒸し上がった下のセイロをとり、臼の所へ運び裏返すように臼の中にあける。上にあつたセイロは素早く釜に戻され、新しく米を入れたセイロをその上に置く。熱を無駄にしない先人の智慧に驚かされる。最初は大杵(注2)、小杵(注3)各一本である程度形をまとめると、次は「かけづき」と称して3人が夫々、小杵を持ち臼を囲み、右が杵を餅から離すと同時ぐらいに自分の杵を下ろす。自分の杵が上がりかけた時、左が杵を打ち下ろす。これを幾回かしたら、次は「あげづき」で大杵を使う人、手水(テミス)を使う人の呼吸の合った動作は、馴染み深い光景である。

釜の中には大根が入れてあり、それで湯の量を見やすくしている。水を足すと、しばらく間が空くので休憩となる。「そろそろ水にするか」と言った後、杵の音がやみ一瞬シーンとなることから、「水を注す」という言葉が生まれたのかもしれない。静かな良い年になりますように。

(注1) セイロ又はセイロウ(蒸籠と書く) (注2) 頭の径約18cm (注3) 頭の径約9cm

寄稿

しずく
『夢』

小林 誠

31

古い話ですが、私の少年期は戦争中で、隣組という組織がありました。それを束ねる町会は、自治体の方針を命令形で伝えてくる時代でした。食料やその他の物資などは不自由でしたが、乏しいながらも隣近所で、お互いに分けあいながら生きていました。警報が鳴って敵の飛行機に空襲された時は、順番を譲り合って防空壕に避難したものです。思い返せば生きることが困難な時代でしたが、隣人同士の助け合いの精神が培われており、「死なば諸共」といった不思議な連帯感があったように思います。翻って今の時代、「隣は何をする人ぞ」的なお付き合いが多いようです。

私は進学を機に、単身で東京生活をおくりました。戦後の首都東京のめざましい復興に驚き、ジブが走り回っている街の姿から、この国の繁栄する未来を予感して、そこで活躍する夢は願望に変わっていきました。これまでの人生、波乱はありました。が、穏やかに終るのが今の夢です。

私の一家は、二こ上鷲宮にお世話になって五十余年になります。とても居心地のよい隣人の方々に囲まれて、子ども達も健やかに成長し巣立っていきましました。彼らにとっては、この地が夢に出てくる故郷になりました。

二この区民活動センターでは、高齢者の癒やされる事業が数多く工夫され、殆ど毎日実施されています。身体を動かす、みんなで懐かしい歌を歌う、頭を使って脳を活性化させる等々。「参加することに意義がある」という訳です。老いても新たな夢を求め、余生に自らチャレンジされることをお奨めします。

(上鷲宮二丁目在住)